

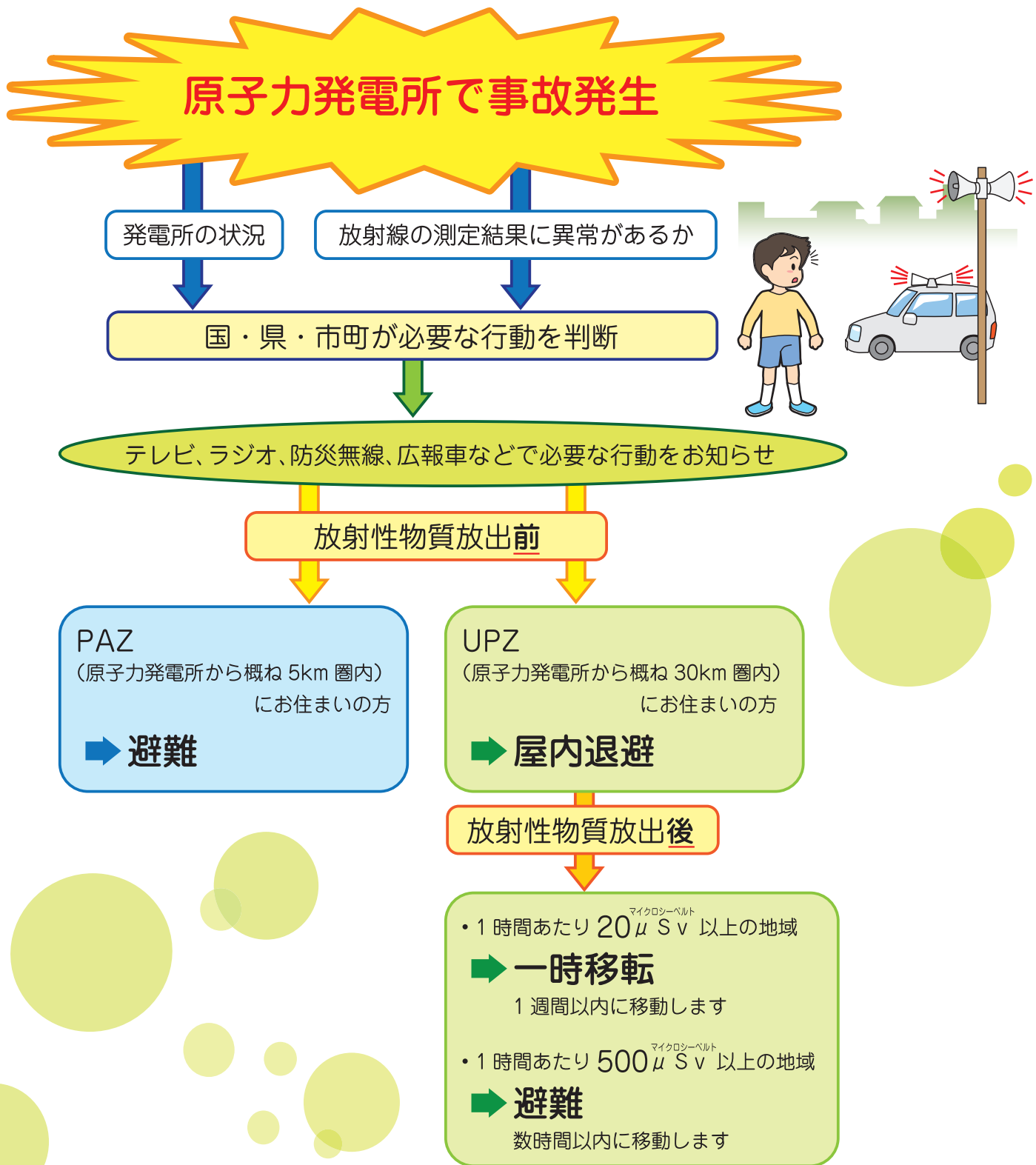
# 3

## 原子力発電所で事故が発生したら、どうすればいいの？

市町からの指示に従い、避難や屋内退避などを実施します。

### どう行動すればよいか？ ～事故発生から避難までの流れ～

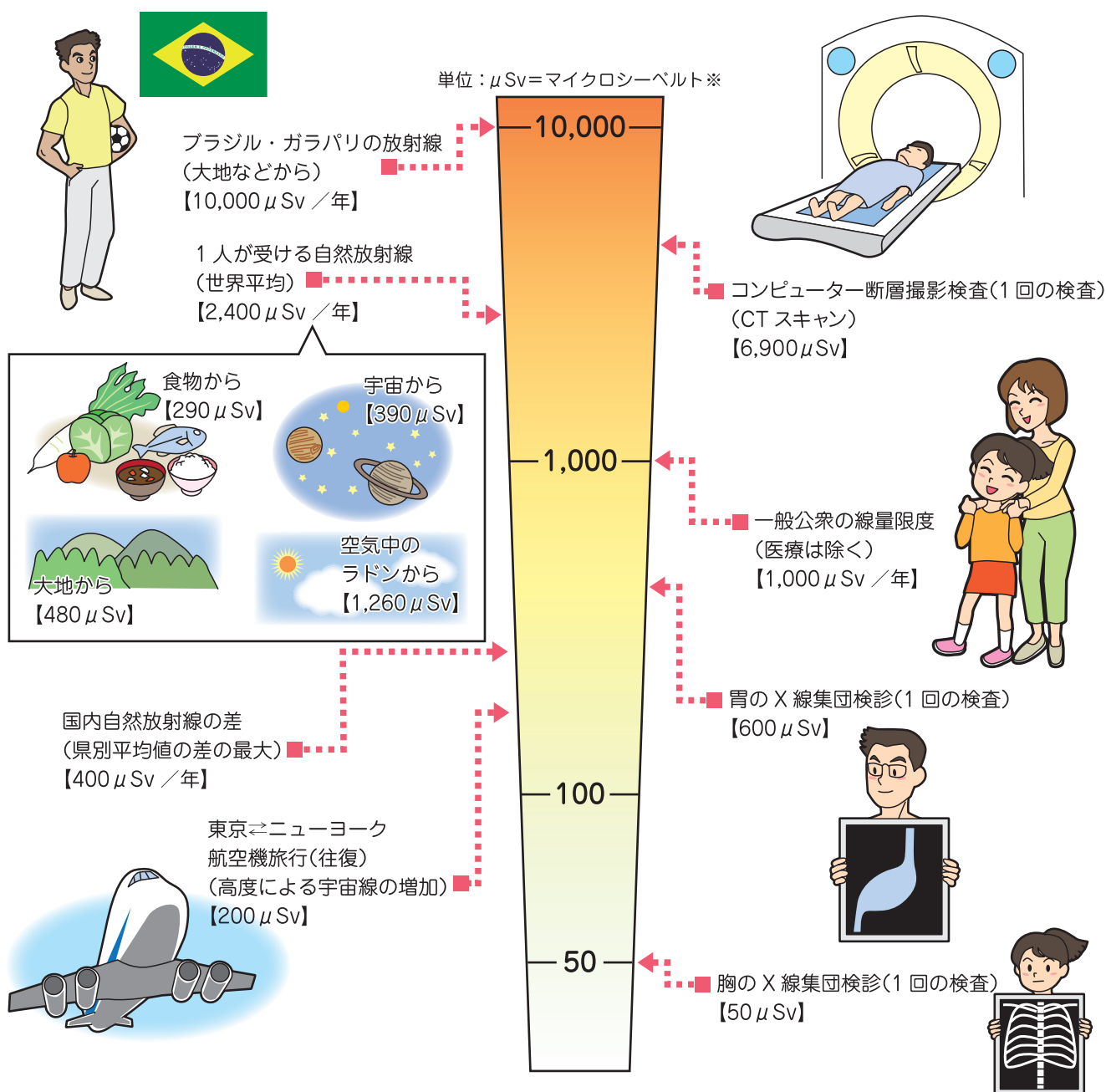
- 国、県、市町が避難や屋内退避が必要か判断し、お知らせします。
- 事故が発生したからといって、必ずしも放射性物質が放出されるわけではなく、避難や屋内退避が必要ない場合もありますので、行政機関からの正しい情報や指示にしたがって行動することが大切です。



## コラム：日常生活と放射線

放射線を出す放射性物質は、人類が誕生する前から存在しており、私たちは日常的に身の回りの地面や空気、そして食べ物からも放射線を受けています。また、医療でも放射線は利用されています。このように、日常生活の中でも常に放射線を受けています。

放射線は、体の細胞を傷つけますが、その傷を修復する仕組みが体の中に備わっています。1人が受ける自然放射線量は世界平均で年間2,400 マイクロシーベルトです。



※マイクロシーベルト( $\mu\text{Sv}$ )とは、人体が放射線を受けたとき、その影響を表す単位です。  
1シーベルト=1,000ミリシーベルト=1,000,000マイクロシーベルト

(文部科学省「日常生活と放射線」をもとに作成)